

## 新指定文化財

東久留米市では、無形民俗文化財、有形民俗文化財、史跡、旧跡など54件が文化財として指定されていますが、今回、新たに4件の文化財が指定されました。

新指定文化財をご紹介します。

### 石幢六地藏（有形民俗文化財）

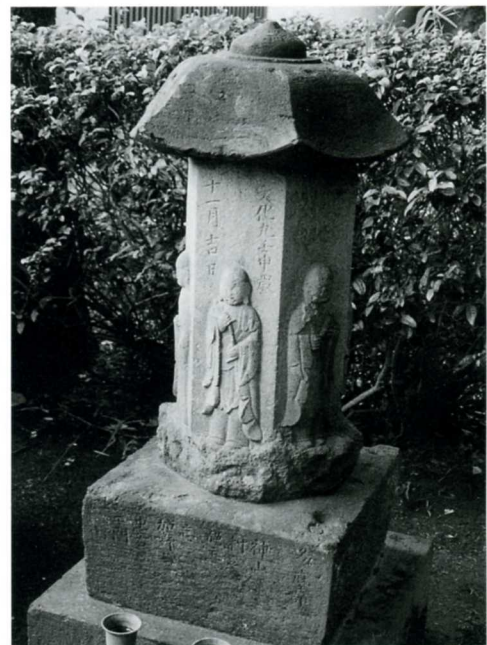
神宝町二丁目13番9号 宝泉寺  
笠付型六面体 石材（安山岩）  
総高 148cm

石幢<sup>せきどう</sup>は、鎌倉時代に中国から伝えられた石造物で、中国の八角に対し日本では六角の幢身にじかに笠をのせた形になっています。

東久留米市内に唯一現存するこの石幢六地藏\*は、六面体の石幢に六道を表現した地藏菩薩が刻まれています。銘文には、文化9年(1812)11月吉日の年記と「西國、秩父、坂東」という観音霊場の名が見られ、観音信仰の色彩も強いことがうかがえます。

施主として記されている志賀野氏は、同寺にある「嘉永2年銘 地藏菩薩」（市指定文化財）の寄附者名の中にも「志賀野七左エ門」と「志賀野兼吉母」の名が見られるように、<sup>こうやま</sup>神山村の篤信家であったと考えられます。

六体の地藏菩薩は温顔で美しく、石幢全体も端整にまとまっており、民間信仰のあり様を知る上でも価値の高い資料です。



▲ 石幢六地藏

#### \*六地藏

死後に行くといわれる地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上の六道において、それぞれ救いの手を差し伸べる地藏で、室町時代に始まり江戸時代にはさまざまな形状のものがつくられるようになりました。同じ宝泉寺内に、一体ずつ丸彫の六地藏（天保15年造立）も奉られています。

## 旧延命寺跡民間信仰石造物群(有形民俗文化財)

八幡町二丁目11番（管理：米津寺）  
石造物5基  
石材（安山岩・凝灰岩）

旧延命寺跡門前に並ぶ法印権大僧都亮孝墓塔、地藏菩薩3基、庚申塔の石造物は、人々の信仰を集めた旧延命寺\*にかかわる希少な資料です。



▲ 法印権大僧都亮孝墓塔

### ● 法印権大僧都亮孝墓塔

天保9年(1838) 総高185cm

梵字の銘から見ると胎藏界大日如来像と推測されますが、がっしりした体躯と螺髪、厳しい容貌は通常の如来とやや異なる印象を与えます。僧位僧官や亮孝という僧名、略歴等が刻まれ、「天保九戊年正月三日寂」の銘が見られることから、この石造物は僧亮孝の肖像を彫刻した墓塔と考えられます。このような墓塔は珍しく、市内では唯一の例として貴重なものです。

### ● 地藏菩薩 造立年代未詳 総高122cm

舟型光背のある地藏菩薩で、右手に錫杖、左手に宝珠を持っています。損傷がはげしく、向って右上部は欠損し、文字の跡は見られるものの銘文はまったく判読できない状態です。

### ● 地藏菩薩 造立年代未詳 総高242cm

寛政9年(1797)から天保6年(1835)に至る年号と6名の戒名が記され、造立年ははっきりしません。銘文からは、延命寺の僧亮孝が中心となり、前沢村の女念仏講中によって造立されたものであることがわかります。

### ● 地藏菩薩 寛政7年(1795) 総高248cm

尊像はかなり損傷していますが、「前沢野念佛講中建立」の文字が読み取れることから、寛政7年当時前沢村に念仏講中があったことが知られます。

### ● 庚申塔 造立年代未詳 総高180cm

青面金剛像とその下に三猿が浮彫されていますが、磨耗のため形容がはっきりせず銘文も未詳です。左右両側に蓮の花葉の浮彫があり、その様式から、造立年代は江戸時代中期と推測されます。

#### \*旧延命寺

楊柳山光明院の山号をもつ天台宗の寺で、天保6年(1835)、大円寺に合併され、墓地を残すのみで本堂・観音堂とも現存しません。上記の石造物群などから昔は村人の信仰が篤かったことがうかがえます。

(参考文献：文化財資料集1「寺社編」、7「石仏編」)

